

2019夏期スケジュール 国際線定期便の概要

2019夏期スケジュール（2019年3月31日～2019年10月26日）期間の事業計画について、航空会社124社※（本邦10社/外航114社）から申請があり、3月29日付で認可。 ※コードシェアのみの事業を行う9社を含む。

運航便数全体の動向（注：当初認可時における第1週目の運航便数、今後期中での増減はあり得る）

旅客及び貨物便合計で**過去最高の5,953便/週**。

本邦社：**1,503.5便/週**（全体の25.3%）（'18冬期比+32便/週・'18夏期比-12.5便/週）

外航社：**4,449.5便/週**（全体の74.7%）（'18冬期比+326.5便/週・'18夏期比+491便/週）

主な動向

○**方面別の動き：中国企業による新規就航及び増便、東南アジア方面の顕著な増加。**

（主な増加）

【中国】**中国国際航空**が関西＝天津線(18冬期中)、**春秋航空**が関西＝広州／大連線、中部＝深セン線(19夏期中)、**上海吉祥航空**及び**山東航空**が関西＝青島線、**上海航空**が中部＝広州線、**天津航空**が中部＝天津線、**中国東方航空**が那覇＝西安線をそれぞれ**初就航**。

また、**深セン航空**が関西＝無錫線(18冬期中)、**中国国際航空**が関西＝成都線、**春秋航空**が関西＝武漢線、**中国南方航空**が中部＝大連線等をそれぞれ**増便**。

【東南アジア】**タイワンエア**が成田／中部／関西／福岡＝バンコク(ドンムアン)線を、**ハートジェット**が成田＝ルノイ、関西＝ルノイ／ホーチンを**初就航**(18冬期中)。**セブパシフィック航空**が成田＝セブ線、福岡＝マニラ線を、**フィリピン航空**が中部＝セブ線、新千歳＝マニラ線を、**ガルーダ・インドネシア航空**が中部＝ジャカルタ線を**増便**。

○**地方空港の動き：近距離アジア路線の着実な増加**

小松空港へキャセイパシフィック航空が、**静岡空港**に中国聯合航空が、**花巻空港**へ中国東方航空がそれぞれ**初就航**(18冬期中)。また、**石垣空港**へ中華航空(台湾)が**夏期運航**、香港エクスプレス航空が**夏期増便を継続**。さらに、**北九州空港**にジンエアが、**佐賀空港**及び**大分空港**にティーウェイ航空が**増便**。

○**LCCの動き：継続的なLCC比率の拡大**

'18冬期比で**+169.5便/週**(うち韓国社の増便が71.5便/週)となり、**旅客便数に占めるLCC比率が29.9%**に。 1

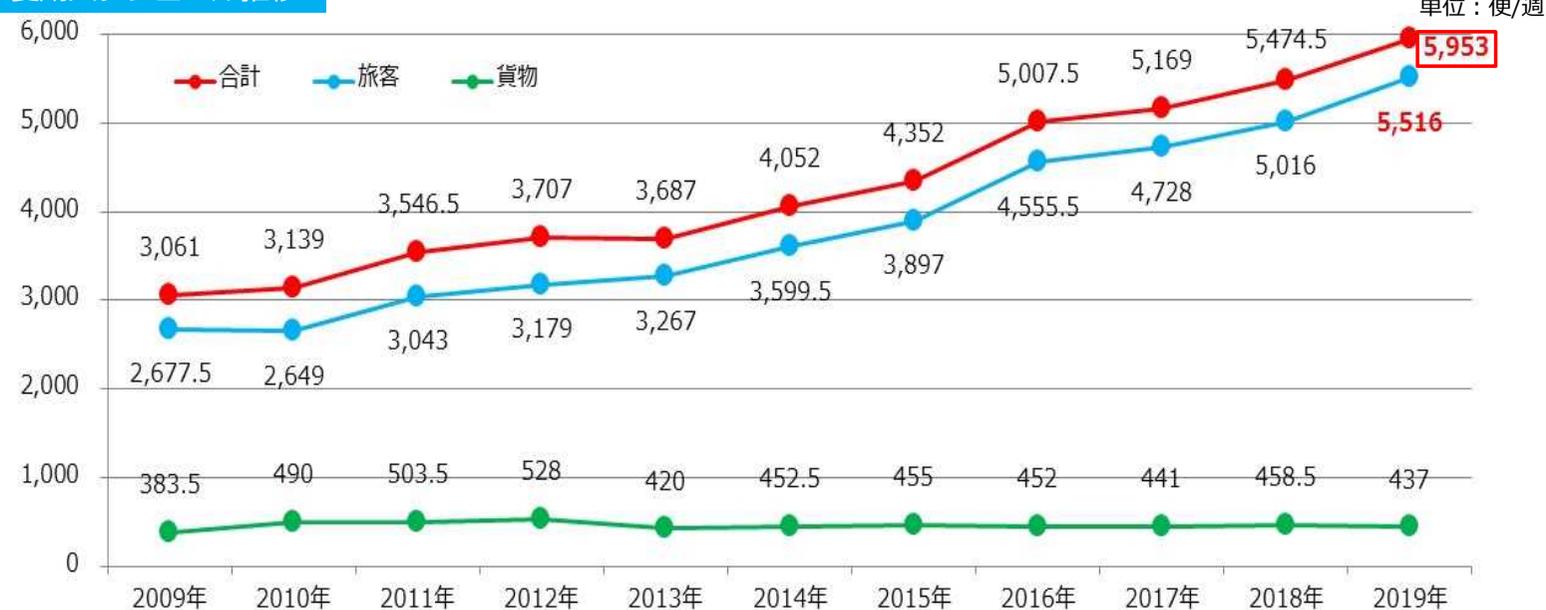
2019夏期 国際線 旅客・貨物別動向

【旅客便】 増便傾向を維持し過去最高便数に。特に成田及び関西空港での増便が寄与。
 【貨物便】 例年通り、概ね横ばいで推移。中華航空の新規就航により中部で増加。

単位：便/週

空港	2019.0 夏期		2018 冬期	2018 夏期	
	18冬期比	18夏期比			
旅客					
成田	1750.5	99.5	78.5	1651	1672
羽田	811.5	21.5	28	790	783.5
関西	1375.5	84.5	165	1291	1210.5
中部	411.5	71.5	84.5	340	327
地方	1167	64.5	144	1102.5	1023
福岡	399	27	29	372	370
那覇	223	-7	21	230	202
新千歳	214	27.5	45	186.5	169
その他	331	17	49	314	282
計	5516	341.5	500	5174.5	5016
貨物					
成田	249.5	14.5	-7	235	256.5
関西	139.5	0	-9	139.5	148.5
中部	22	2.5	2	19.5	20
地方	26	0	-7.5	26	33.5
那覇	20	0	-7.5	20	27.5
その他	6	0	0	6	6
計	437	17	-21.5	420	458.5
全体					
成田	2000	114	71.5	1886	1928.5
羽田	811.5	21.5	28	790	783.5
関西	1515	84.5	156	1430.5	1359
中部	433.5	74	86.5	359.5	347
地方	1193	64.5	136.5	1128.5	1056.5
福岡	399	27	29	372	370
那覇	243	-7	13.5	250	229.5
新千歳	214	27.5	45	186.5	169
その他	337	17	49	320	288
計	5953	358.5	478.5	5594.5	5474.5

夏期スケジュール推移



冬期スケジュール推移



2019夏期 国際線(旅客・貨物便) 国籍別動向

【本邦社】1,503.5便/週（'18冬期比+32便/週・'18夏期比-12.5便/週）
 【外航社】4,449.5便/週（'18冬期比+326.5便/週・'18夏期比+491便/週）
 国籍別最多は韓国社で1,209.5便/週（外国企業のうち約27.2%）、次に中国社で896便/週（同約20.1%）。
 また、便数の増加が最も多いのは中国社で'18冬期比+105.5便/週、次いで東南アジア社も同比+96便/週。

単位：便/週

航空会社国籍	2019 夏期		2018 冬期	2018 夏期	
	18冬期比	18夏期比			
日本企業	1503.5	32	-12.5	1471.5	1516
外国企業	4449.5	326.5	491	4123	3958.5
韓国	1209.5	56.5	169.5	1153	1040
中国	896	105.5	140	790.5	756
台湾	453	13	30	440	423
香港	376.5	-3.0	4.5	379.5	372
東南アジア	632	96	126	536	506.5
その他アジア	35	0	1	35	34
米国	462.5	14	-22	448.5	484.5
ヨーロッパ	236	33	35	203	201
北アジア	56	2	-2	54	58
中東	56	1.5	2.5	54.5	53.5
その他	37	8	7	29	30
計	5953	358.5	478.5	5594.5	5474.5

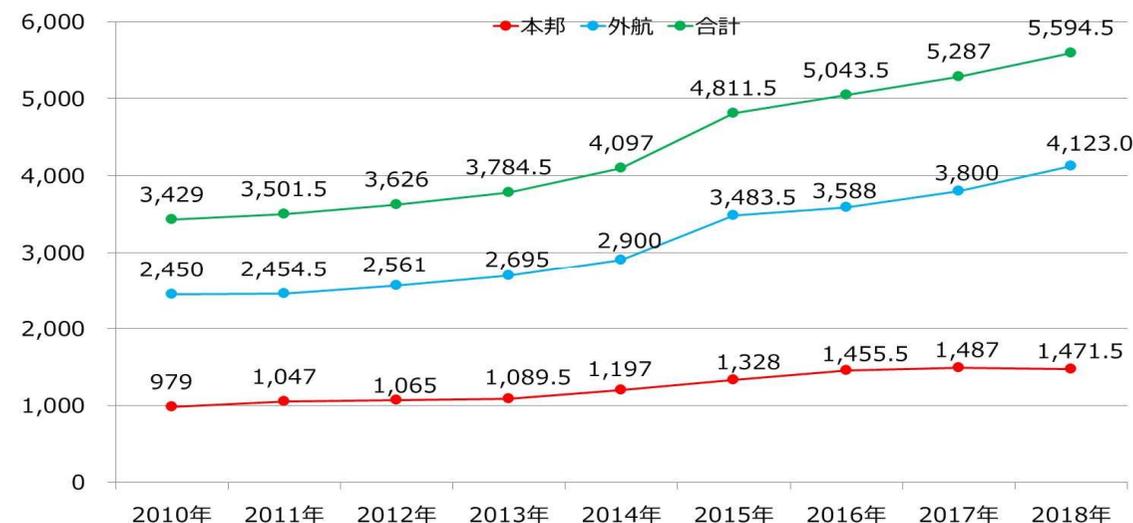
夏期スケジュール推移

単位：便/週



冬期スケジュール推移

単位：便/週

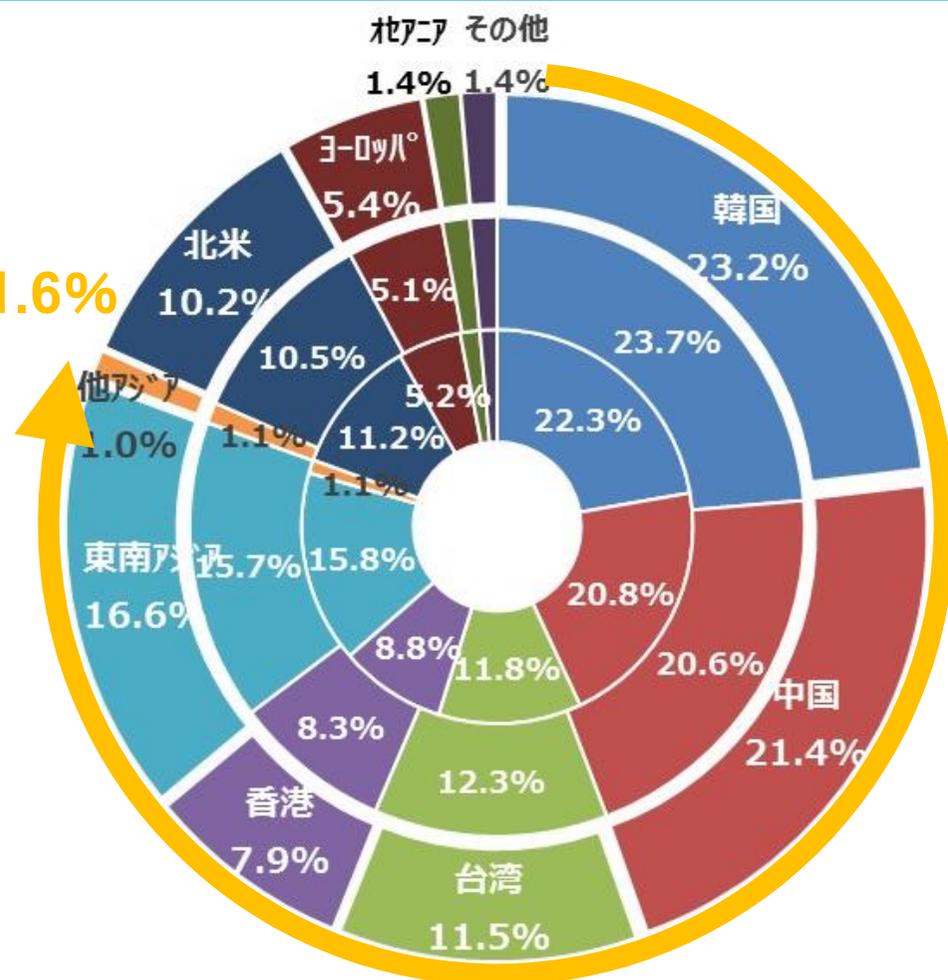


2019夏期 国際線(旅客便) 方面別・空港別内訳

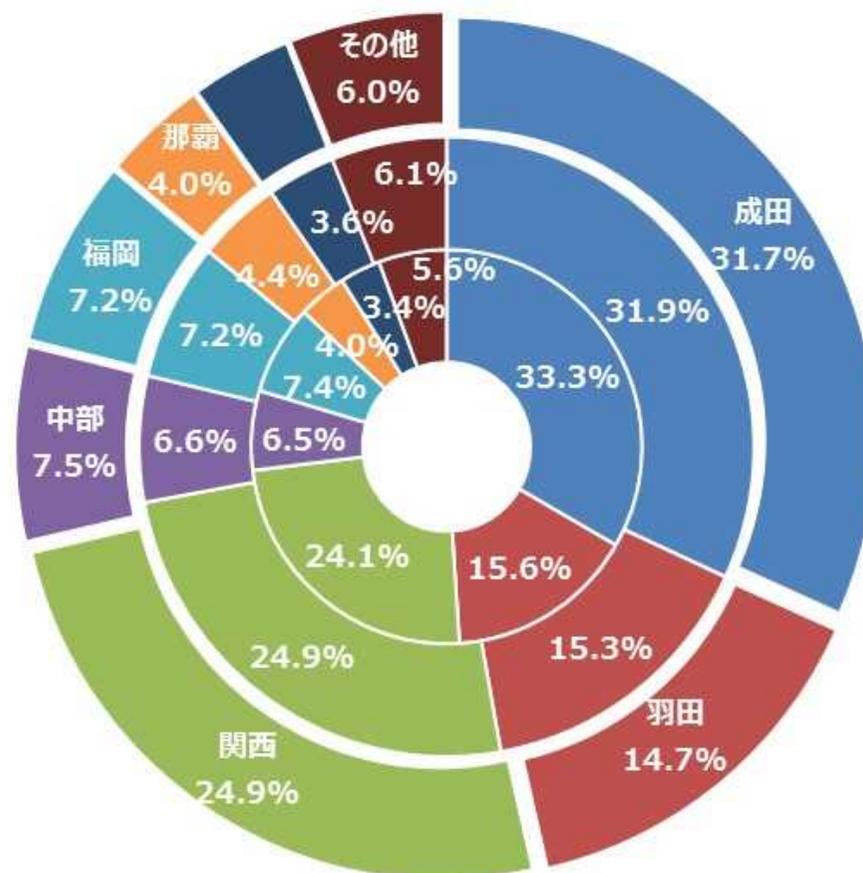
【方面別】 アジア方面の便数が全体の約81.6%を占める。アジアの中で最多は韓国方面で、次いで中国方面、台湾方面の順。シェア順位に変動はないがシェア増加が特に目立つのは中国方面。

【空港別】 成田・羽田空港で全体の約半数を占めるが、関西・中部空港でのシェア拡大により、成田・羽田空港のシェアは微減傾向。

方面別



空港別



※'19夏期 (外側)、'18冬期 (中間)、'18夏期 (内側) の各期における各方面/空港の占める便数割合

2019夏期 国際線(旅客便) 方面別推移

旅客便全体の約81.6%を占めるアジア方面の増加傾向が継続。特に春秋航空、中国南方航空、中国国際航空、上海吉祥航空及び山東航空等の中国社の増便等により中国方面が大幅に増加。
 また、ハートジェットやタイライオンエアの新規開設・フィリピン航空の増便により東南アジア方面も着実に増加。

方面別内訳



内訳

アジア内訳



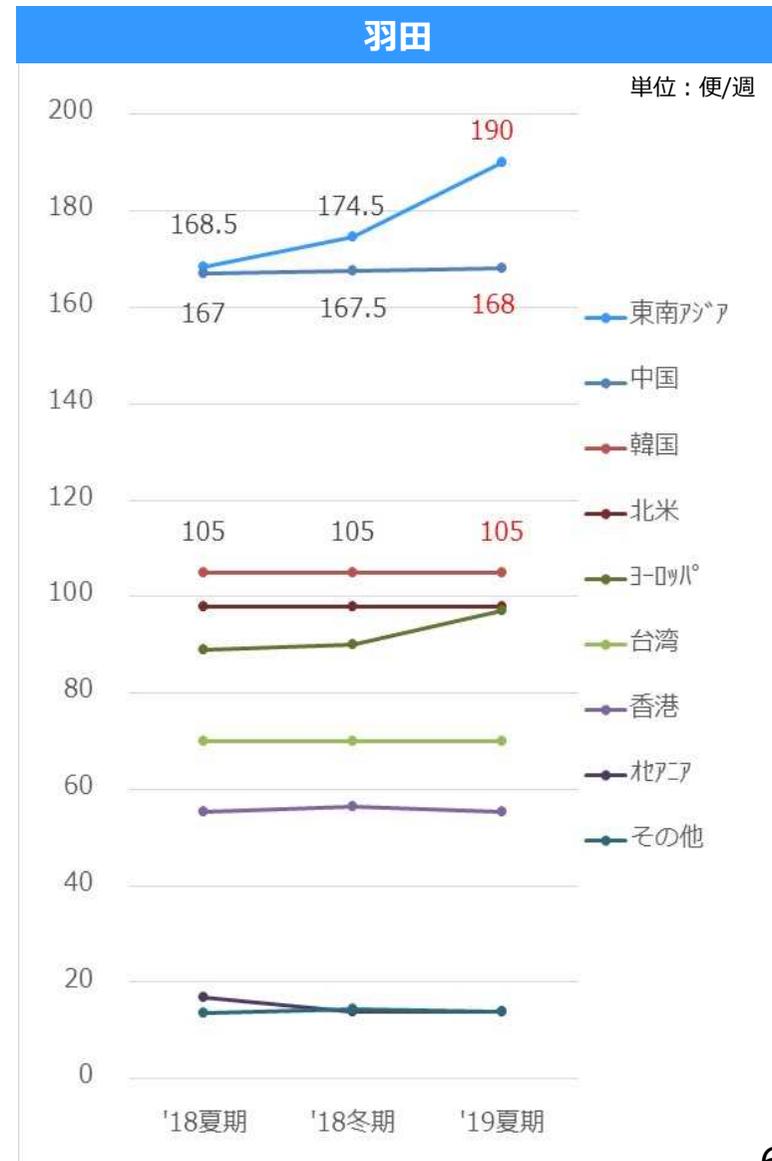
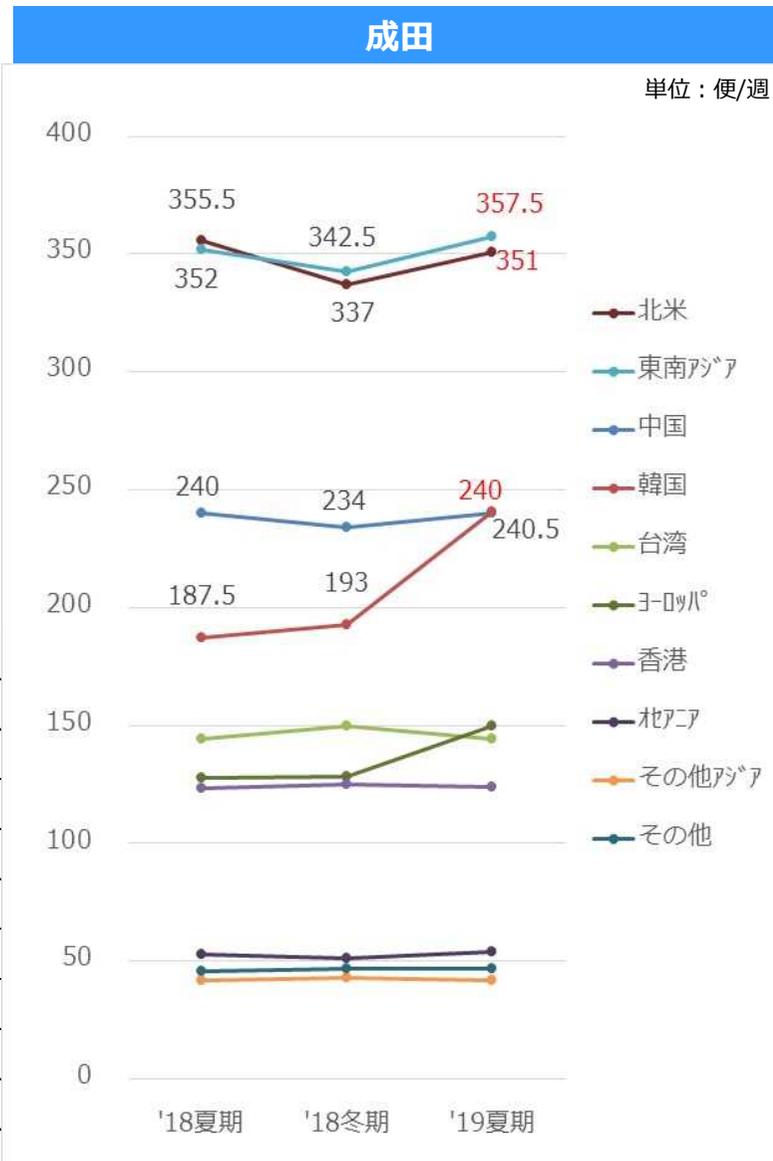
2019夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(成田・羽田)

【成田】韓国方面ではティーウェイ航空、済州航空、ジンエア及びビスター航空のLCCが初就航及び大幅な増便。また、ヨーロッパ方面では、オーストリア航空がウィーン線を復便、フィンエアがヘルシンキ線を、オロ航空がウラジオストク線を増便。

【羽田】日本航空がマニラ線（18冬期中）を、全日本空輸がウィーン線を就航（18冬期中）。シンガポール航空がシンガポール線を増便（18冬期中）。

単位：便/週

成田	'18夏期	'18冬期	'19夏期
北米	355.5	337	351
東南アジア	352	342.5	357.5
中国	240	234	240
韓国	187.5	193	240.5
台湾	144.5	150	144.5
ヨーロッパ	128	128.5	150
香港	123.5	125	124
オセアニア	53	51	54
その他アジア	42	43	42
その他	46	47	47
合計	1672	1651	1750.5
羽田	'18夏期	'18冬期	'19夏期
東南アジア	168.5	174.5	190
中国	167	167.5	168
韓国	105	105	105
北米	98	98	98
ヨーロッパ	89	90	97
台湾	70	70	70
香港	55.5	56.5	55.5
オセアニア	17	14	14
その他	13.5	14.5	14
合計	783.5	790	811.5



2019夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(関西・中部)

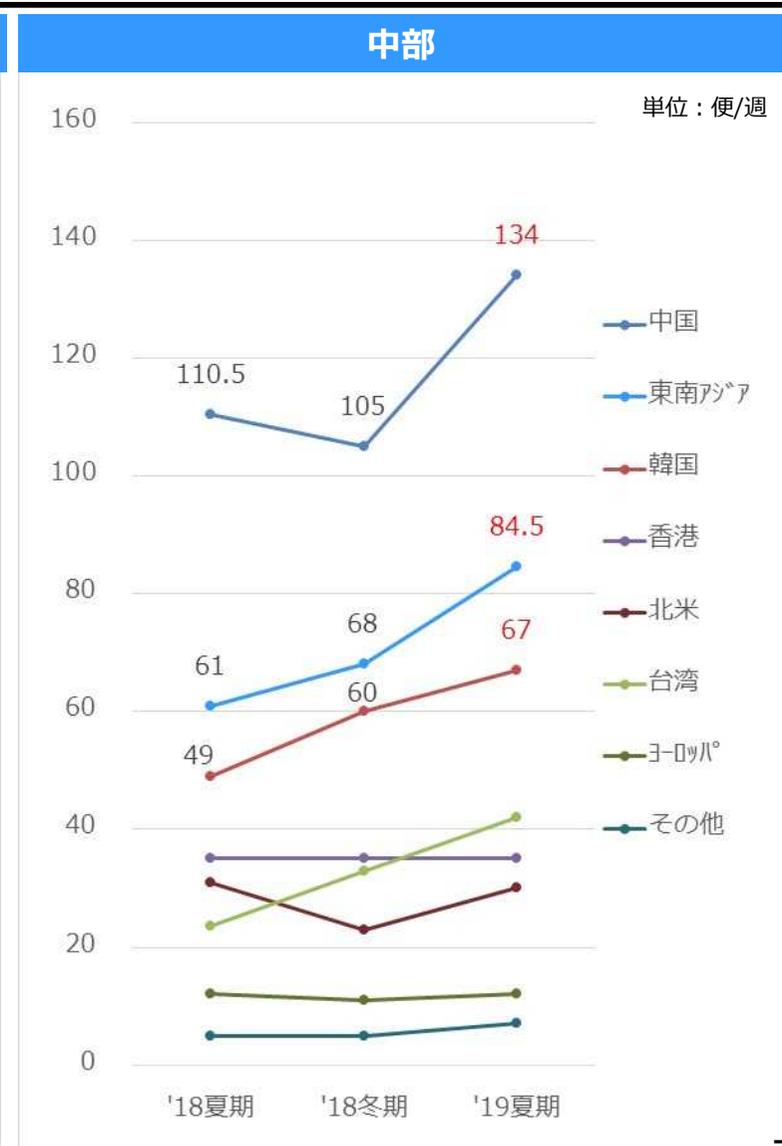
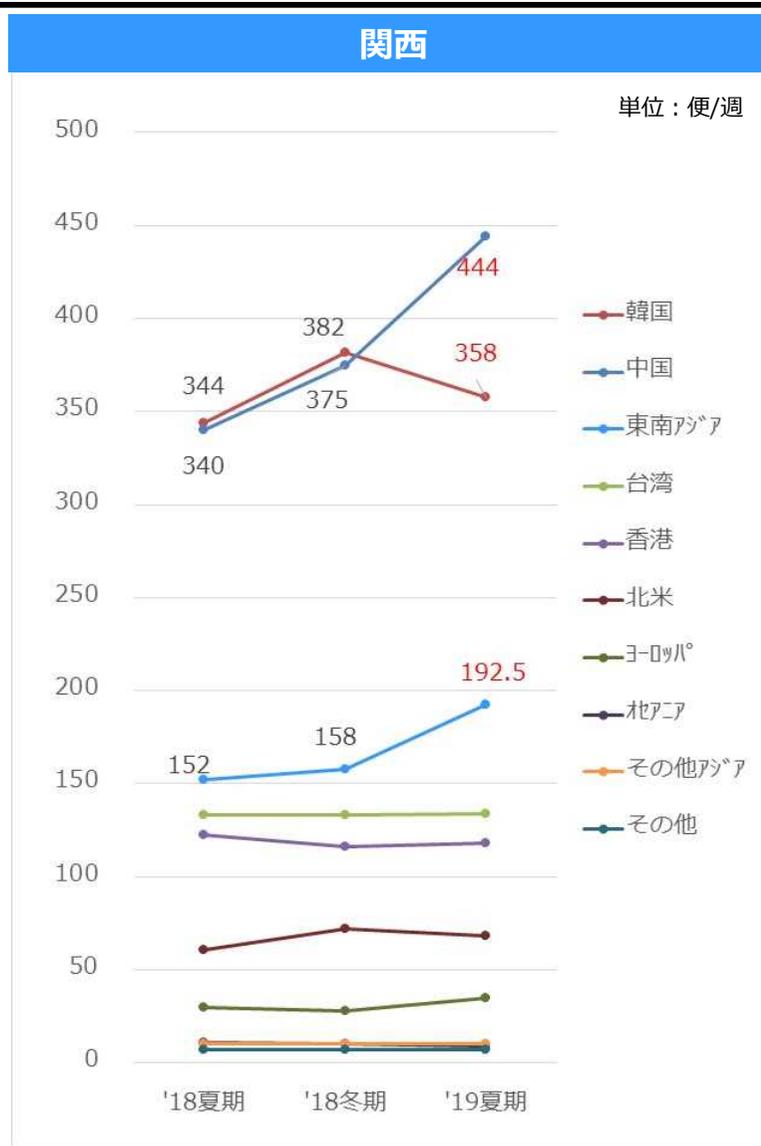
【関西】春秋航空の広州線、大連線等、四川航空の西安線等、中国国際航空の成都線等、上海吉祥航空の青島線、山東航空の青島線の増便等により中国方面が増加。また、タイワンエアのバンコク(ドンムアン)線、ベトジェットのリノイ/ホーチミン線就航(18冬期中)、タイアジアXのバンコク(ドンムアン)線の増便等により東南アジア方面が増加。

【中部】中国南方航空の大連/ハルビン線等、上海航空の広州線、中国東方航空の西安線等により中国方面が大幅に増便。エアアジアジャパンの台北線開設(18冬期中)等により台湾方面が、タイワンエアのバンコク(ドンムアン)線増便等により東南アジア方面が増加。

単位：便/週

関西	'18夏期	'18冬期	'19夏期
韓国	344	382	358
中国	340	375	444
東南アジア	152	158	192.5
台湾	133	133	134
香港	122.5	116	118
北米	61	72	68
ヨーロッパ	30	28	35
オセアニア	11	10	9
その他アジア	10	10	10
その他	7	7	7
合計	1210.5	1291	1375.5

中部	'18夏期	'18冬期	'19夏期
中国	110.5	105	134
東南アジア	61	68	84.5
韓国	49	60	67
香港	35	35	35
北米	31	23	30
台湾	23.5	33	42
ヨーロッパ	12	11	12
その他	5	5	7
合計	327	340	411.5



2019夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(新千歳・福岡・那覇) 国土交通省

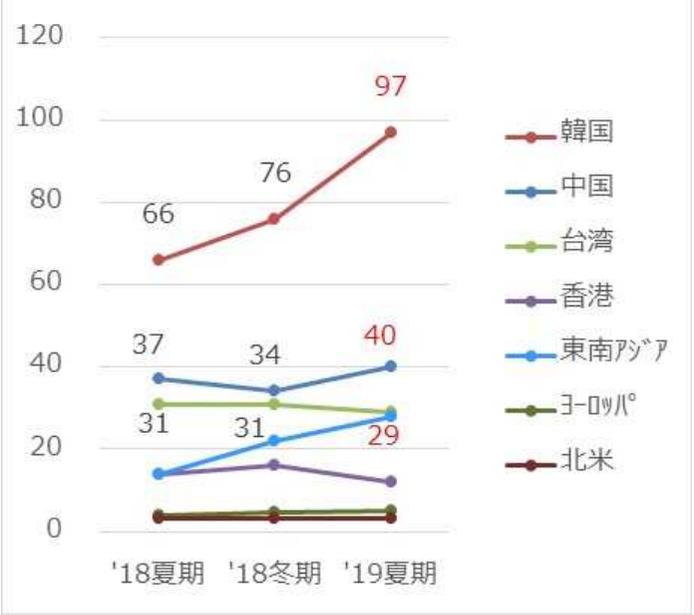
【新千歳】 済州航空の釜山線、ティーウェイ航空の大邱線、エアウルの仁川線(18冬期中) 就航等により韓国方面が大幅に増加。また、リンド・アガワランポール線(18冬期中) を就航、フィリピン航空がマニラ線を就航(18冬期中)。さらに、中国南方航空が大連線を就航。

【福岡】 18冬期中に、タイオンエアがバンコク(ドンムアン) 線を、エアアジアがアガワランポール線を就航、セブパシフィックがマニラ線を増便。

【那覇】 バニラエアの台北線減便により台湾方面が、イースター航空の仁川線減便により韓国方面が減便。

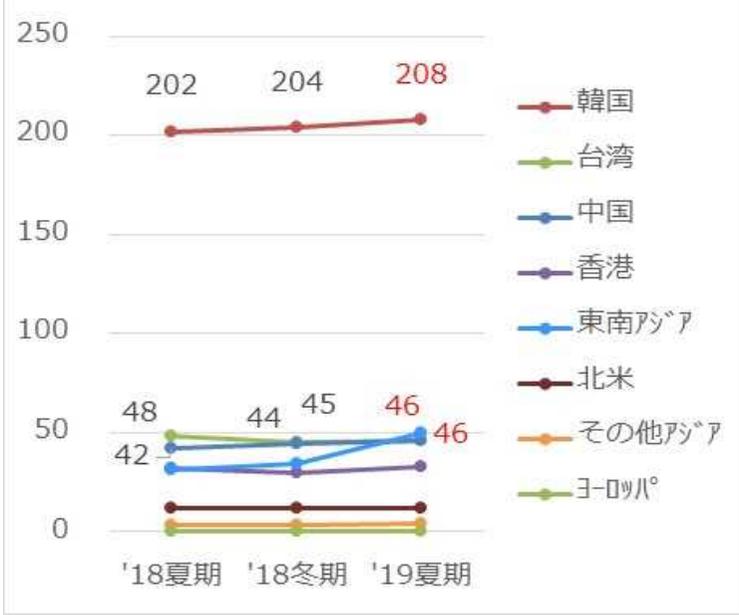
単位：便/週

新千歳	'18夏期	'18冬期	'19夏期
韓国	66	76	97
中国	37	34	40
台湾	31	31	29
香港	14	16	12
東南アジア	14	22	28
ヨーロッパ	4	4.5	5
北米	3	3	3
合計	169	186.5	214



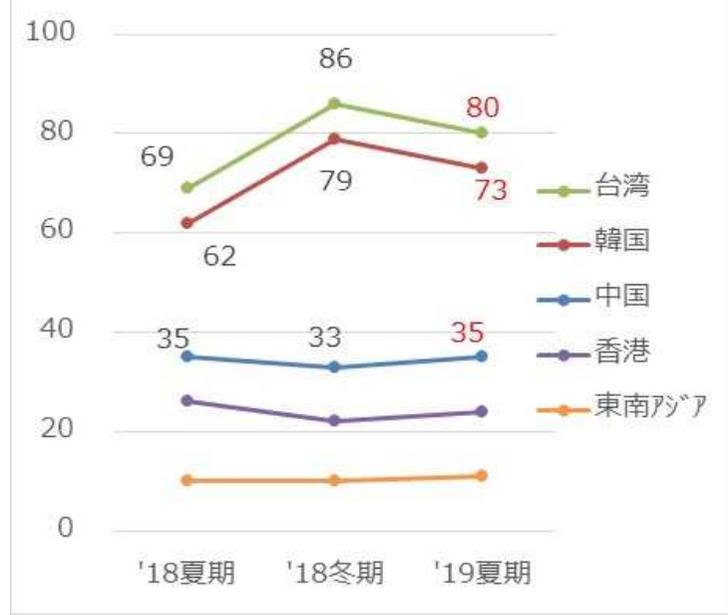
単位：便/週

福岡	'18夏期	'18冬期	'19夏期
韓国	202	204	208
台湾	48	45	46
中国	42	44	46
香港	32	30	33
東南アジア	31	34	50
北米	12	12	12
その他アジア	3	3	4
ヨーロッパ			
合計	370	372	399



単位：便/週

那覇	'18夏期	'18冬期	'19夏期
台湾	69	86	80
韓国	62	79	73
中国	35	33	35
香港	26	22	24
東南アジア	10	10	11
合計	202	230	223



2019夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(その他 地方空港)

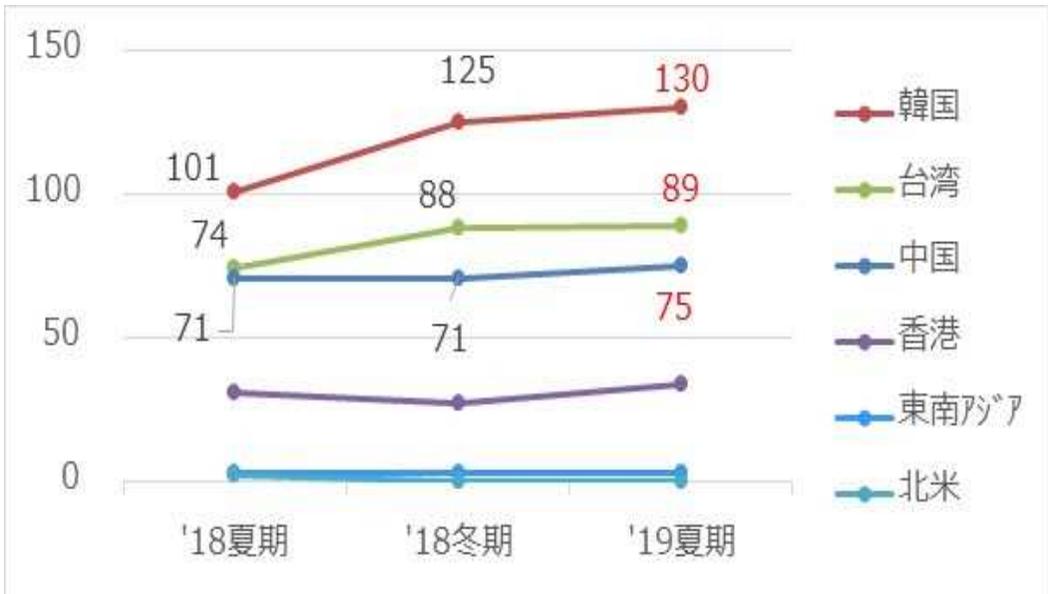
【花巻】中国東方航空が上海線を就航(18冬期中)。【北九州】ジンエアが仁川線を増便。
 【静岡】中国聯合航空が煙台線を就航(18冬期中)。【大分】ティーウェイ航空が釜山,務安線を初就航(18冬期中)。
 【小松】キャセイパシフィック航空が香港線を就航。【佐賀】ティーウェイ航空が釜山,大邱線を初就航(18冬期中),春秋航空が上海線を増便(18冬期中)
 【石垣】中華航空が台北線,香港線が香港線の季節運行を継続。

単位:便/週

単位:便/週

その他	'18夏期	'18冬期	'19夏期
韓国	101	125	130
台湾	74	88	89
中国	71	71	75
香港	31	27	34
東南アジア	3	3	3
北米	2		
合計	282	314	331

空港	18夏期	18冬期	19夏期
函館	12	12	12
旭川	2	0	2
青森	5	7	3
花巻	0	2	4
仙台	21	26	22
茨城	6	11	11
新潟	10	10	12
静岡	22	18	21
富山	11	9	12
小松	14	14	16
高松	20	22	23
松山	5	7	5
米子	7	8	8
岡山	23	23	23
広島	30	27	28
山口宇部	0	3	0
北九州	14	29	32
長崎	5	5	5
大分	7	7	13
佐賀	12	12	21
熊本	12	15	13
宮崎	11	10	8
鹿児島	26	35	29
石垣	8	2	8
合計	282	314	331



2019夏期 国際線 LCC便数推移

LCCは、期首時点において25社が運航し、全体で1,647便/週。'18冬期比で169.5便/週増加。
 特に、韓国社が71.5便/週、タイ社が41便/週、中国社が20便/週、ベトナム社が20便/週とそれぞれ大幅に増加。

旅客便数に占めるLCCの割合

